

2021年3月16日（火曜）

全労金2021春季生活闘争ニュース・第17号

【全労金2021春季生活闘争統一スローガン】
今こそ全国の仲間と思いをひとつに！心は密に団結を！

本日は、**回答期限日**です！

「一斉職場集会」で、全労金組織全体の状況を確認しよう！

◎「一斉職場集会」を開催し、全国の交渉状況を確認しよう！

全労金2021春季生活闘争は、本日3月16日を全単組統一の「回答期限日」としています。昨日までの交渉の結果、10単組（北海道・東北（金庫・関連）・中央・新潟・長野・東海（金庫・関連）・近畿（関連）・中国（金庫・関連）・四国（金庫・関連）・沖縄）では、一定の方向性を労使で取りまとめ、基本合意を表明する予定です。残る4単組（静岡・北陸・九州（金庫・関連）・セントラル）では、納得できる回答を引き出すため、闘争委員会や拡大闘争委員会を配置したうえで、朝から断続的に交渉を展開しています。

今春季生活闘争は、新型コロナウイルス感染症の感染収束が見通せない中で展開する春季生活闘争であり、全労金2021春季生活闘争方針も「要求の組み立て」から見直しました。この間、全労金春季生活闘争は、同じ思いを持って闘うことを確認し、それぞれの立場で「要求」「協議」「仲間への支援」等を進める「統一闘争」として展開しています。2021春季生活闘争においても全国会議等で情報共有を図りながら、お互いを支援しあうことを確認して闘争を開始しました。そのうえで、単組は優先して解決をめざす項目を要求として掲げました。

昨日までの交渉状況は上記の通りですが、組合員の総意で確立した要求に対して理解を示し、改善に向けた回答を示そうとする金庫・事業者もあれば、本日も交渉が続けられている単組では、労使で共通認識に立つために、粘り強く交渉が続けられています。

金庫・事業者は、この間の交渉で、「労金業態を取り巻く経営の先行きの不透明さ」を主張しています。私たち労働組合は、新型コロナウイルス感染症による影響が続く中で、今後の業務内容や職場環境がどのように変化していくのか、同じ様に先行きが見通せず、不安を感じている一方で、労働金庫の社会的役割を發揮するために、懸命に業務に邁進しています。こうした状況は、2021年度も続くことが想定されます。だからこそ、2021春季生活闘争の交渉における労使の認識一致は極めて重要です。そのためにも、全労金組織 9,000名、すべての組合員が結集し、納得のいく回答に向けて、最後の最後まで闘い抜きましょう。

本日は、多くの単組が基本合意の表明を予定しています。「一斉職場集会」では、自単組の交渉状況と、全労金組織全体の交渉経過や合意・妥結内容等の共有をお願いします。

以上